

# 安田女子短期大学

## 評価短期大学の概要

設置者 学校法人 安田学園  
理事長 安田 實  
学 長 吉野 昌昭  
A L O 大島 久雄  
開設年月日 昭和 30 年 4 月 1 日  
所在地 広島県広島市安佐南区安東 6 - 13 - 1

## 設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
秘書		100
保育		150
	合 計	250

## 専攻科および入学定員

なし

# 機関別評価結果

## 1. 機関別評価結果

安田女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成18年3月23日付で適格と認める。

## 2. 機関別評価結果の事由

安田女子短期大学の設置母体である学校法人安田学園は、大正4年に創設された広島技芸女学校に始まり、現在は大学院、大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園等を包含する総合学園となっている。昭和30年、保育科を設置する短期大学として開学された当該短期大学は、現在、保育科及び秘書科の2学科体制をとるに至っている。

当該短期大学は、創設者が掲げた建学の精神「柔しく剛く」を基に、「人格の完成を目指して、学術や技能を磨き、徳性を身につけ、いかなる境遇にあっても、女性らしい柔しさと、剛い意志をもって、社会に貢献できる心身ともに健全な教養ある女性の育成」を教育目標として定めている。

平成17年1月20日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は開設以来、建学の精神及び教育の理念に基づいた人格の陶冶・人間形成等揺るぎない教育がなされていると認められる。教育目的・教育目標は、各種の出版物に学園訓と共に明確に示されている。また、学科毎にカリキュラム編成時および毎年、開講科目の決定に先立って点検・確認されている。

教育課程は、資格取得を前提に編成されており、建学の精神や教育理念が反映されたもので、学生ニーズを十分に踏まえている。基礎教育科目（教養科目）を含め、授業形態もバランスがとれている。単位認定と評価については、学習過程や理論・実技の習得状況を踏まえ総合的に評価を行っている。授業内容、教育方法への改善努力として、平成6年度より学生による授業評価の実施、集計結果の学内での掲示・公開、平成12年度にはファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会の設立、授業改善の方策の一手段として授業公開の実施等、相当な努力をしている。また、各授業科目の単位認定状況及び授業に対する

学生の満足度の状況は良好で、資格取得についても十分な実績をあげており、卒業後の進路については専門職への就職の割合が高い。

学生生活の支援については、入学時のガイダンス、学期毎のガイダンス等きめ細くなされ、チューター制の導入、週 1 回の「まほろばタイム」による学習や生活面での支援体制が整っている。学生主導の行事が盛んで、学生のための福利厚生施設も充実している。進路支援に対してもキャリアセンターを中心に積極的に対応している。

研究については、研究費支給規程が具備され、研修日と研究室が確保されている。ほとんどの教員には著作、論文、学会発表等の研究業績が認められ、科学研究費補助金申請は年々増加し、採択実績がある。これらの成果は学内広報誌等に公表されている。

地域の高校や保育・教育現場、各種団体からの出張授業の依頼や講師としての招聘が多く、社会的活動が活発になされている。学生は、休暇を利用した養護施設、老人ホームへの訪問等、学科毎にボランティア活動への取り組みがなされている。

管理運営は、適確になされている。

財務体質については、自己資金の充実が図られており健全である。「予算執行システム」の開発により予算管理が徹底されている

自己点検・評価委員会は平成 11 年度に将来計画委員会から独立し、学生による専任教員、非常勤講師への授業評価、授業公開、「安田女子短期大学の現状と課題」の発行等を中心とした活動を展開している。また、こうした活動では FD 委員会との連携作業もみられ、全学的な体制が整備されている。

### 3 . 優れている点及び向上・充実のための課題

#### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 学生への建学の精神の浸透を目的として週 1 回 (90 分間) クラス単位で学生の自主的な活動 (教室の清掃、学生同士の話し合い、3 分間スピーチ等) をチューターの支援のもとに実施している。

評価領域 教育の内容

- ・ 授業に関する改善には力点を置き、継続的な努力が認められる。

評価領域 教育の実施体制

- ・ ノートパソコン用情報コンセントの設置、CALL 教室の設置、学習者用デジタルピアノを備えた ML 教室の設置等積極的に設備更新を行っている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ GPA (グレード・ポイント・アベレージ) 制度を導入し、学生に自らの成績を的確に把握させ、主体的な学習を促している。

評価領域 学生支援

- ・ 独自の教育ローン利子補給制度は保護者の負担軽減につながっている。
- ・ ウェブサイト上での履修登録がなされている。

評価領域 研究

- ・ 授業科目に関係のある研究という条件付きの学術研究助成制度が整備され、教育への還元に努めている。

## **(2) 向上・充実のための課題**

評価領域 社会的活動

- ・ 正規の授業公開を検討されているが、その積極的な公開を期待したい。

## **(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

なし